

公益財団法人 旭硝子財団

平成 22 年度募集・平成 23 年度採択

「ステップアップ助成」応募要項

1. 研究助成の目的

旭硝子財団は、次世代社会の基盤を構築するような独創的な研究への助成事業を通じて、人類が真の豊かさを享受できる社会および文明の創造に寄与します。当財団には4つの国内研究助成プログラムがあります。本冊子で説明する「ステップアップ助成」プログラムでは、過去3年間に当財団の助成を終了した研究テーマの中から将来有望なものを選抜し、研究助成を行います。

2. 応募要件

1. 所属機関：国内の大学、その附置研究所、ならびに大学共同利用機関
2. 職位：上記の機関に所属し、主体的に研究を進めている常勤の研究者
 - ・任期付研究者の場合には、応募時点において、申請する研究期間（3～4年間）のうち、少なくとも初年度の雇用が見込まれること
 - ・プロジェクト研究員、ポスドクの場合には、職務専念義務の制約がないこと
3. 機関承認：当財団からの寄附金を所属機関がその規程に従った研究費として管理する前提のもとに、所属長が応募を承認していること
4. 年齢：1956年1月1日以降生まれであること
5. 助成および応募の重複：応募時点で当財団からの研究助成を受けていないこと、ならびに当財団に対して同一年度に複数の応募申請をしていないこと
6. 事前通知：当財団から、応募資格者としての通知を受けていること（実質有資格者約135名）

3. 助成対象研究テーマ

ステップアップ助成プログラムでは、当財団が過去に助成した研究テーマの継続であることを前提とします。助成終了後の研究の進展を踏まえた申請、あるいは派生的な研究テーマを含めた申請が可能です。

4. 助成対象研究分野

申請にあたり、下表の中から研究の該当する分野を選んでください。

自然科学系	第1分野	化学・生命科学系の研究で、物質・材料、生命・生物に関わる研究、およびこれらに関係の深い研究
	第2分野	物理・情報系の研究で、材料・デバイス・システム、情報・制御ならびに設計・生産の基礎に関わる研究、およびこれらに関係の深い研究
	第3分野	建築・都市工学の研究で、人間生活の歴史と将来を視野に置いた建築・都市空間に関わる研究
人文・社会科学系		持続可能な社会の実現に向けた人文・社会科学的な研究

5. 採択数

全分野の合計として、4-6件の予定です。

6. 助成金額と研究期間、助成金の振込時期

1件あたり年間200～700万円程度とします。申請期間を通じた総額は、実験・測定系の研究では上限2000万円、調査を中心とした研究では上限600万円でご申請ください。継続審査を毎年受けることを前提に、研究期間は平成23年4月から3～4年間です。但し、助成金は初年度6月、それ以降は毎年4月に振込む予定です。

7. 助成金の使途

以下の費用を申請可能です。費目間の分配比率に指定はありませんが、資金計画の適否も選考審査の対象です。

1. 設備備品費（主たる使途にしないこと）
2. 消耗品費
3. 旅費
4. 謝金（アルバイト・フィールド調査などの労役対価）
5. その他（印刷費・通信費・会議費など）
6. 所属機関へ支払う間接経費／オーバーヘッド（当財団からの寄附金は原則として全額を直接研究費に充てて頂く方針ですので、採択後に必ず学内で免除申請を行ってください。採択決定者には別途、詳細をお伝えします）

なお、助成金を申請者や共同研究者の労務費（給与や社会保険費等）に充当することはできません。

8. 応募方法

<提出する書類>

- | | | |
|-------------------------|---|----------------------------|
| 1. 申込書（所属長の捺印を要します）：1部 | } | 当財団ホームページから書式をダウンロードしてください |
| 2. 個人情報の取扱いに関する同意書：1部 | | |
| 3. 申請書（ホチキス留め）：5部 | | |
| 4. 論文別刷（コピー可、ホチキス留め）：5部 | | |

※ 申請書と論文別刷の各1部ずつをクリップで留めた状態で、5セットお送りください。

※ 申請書類は当財団において管理し、研究助成の目的以外には使用いたしません。

※ 原則として申請書類は返却いたしません。

<応募情報のWEB入力と申請書および論文別刷の電子提出>

提出書類の発送後、速やかに当財団ホームページの右側下にある「ファイル送付」ボタンをクリックし、「研究助成 電子申請フォーム」から応募情報の入力と、申請書と論文別刷のPDFファイルをアップロードしてください。アップロードするPDFファイルの詳細については当財団ホームページをご覧ください。当財団で応募の確認に使用いたします。8月6日（金）までに書類提出とWEB提出の両方が完了している必要があります。

<提出先>

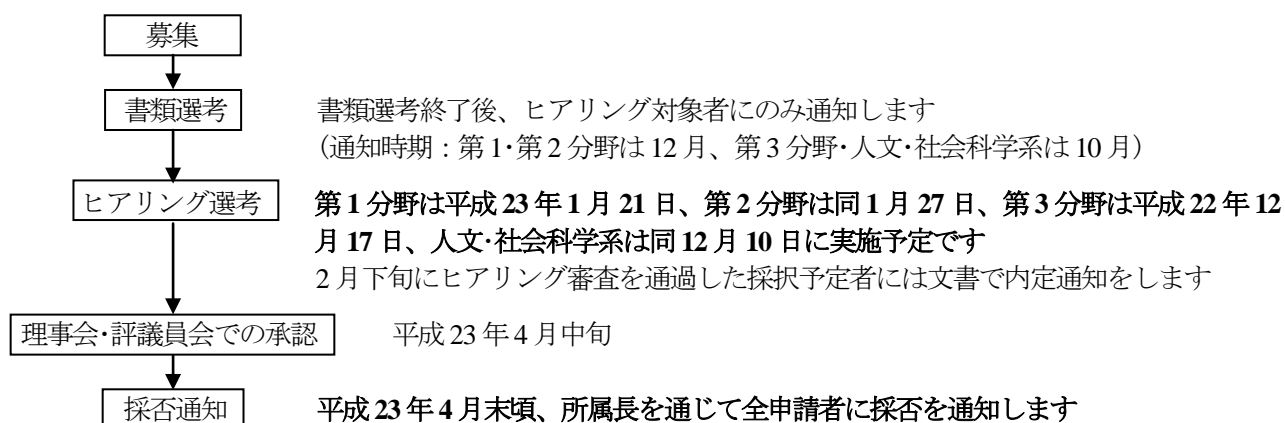
〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ 2F 公益財団法人 旭硝子財団 研究助成担当宛

<提出期間>

平成22年6月11日(金)～平成22年8月6日(金)：必着

締切後、2週間以内に当財団から電子メールで受理通知を送ります。

9. 選考日程と採否通知



※ 採否通知発送までの期間において、個別のご照会には回答いたしかねますので、ご了承ください。

10. 選考のポイント

1. 当財団からの助成期間中、ならびに終了後の（当財団からの助成テーマに関連した）研究進捗実績
2. 今後の3～4年間に上記研究をどのように発展させるかについての展望
3. 特に自然科学系の場合、新たなブレークスルーについての提案
4. 研究テーマの独創性、学術的または社会的な意義と期待効果
5. 研究助成金の使途内訳など

※ 選考の過程において、当財団は選考に利害関係のない有識者に申請書を送って評価意見を求めることがあります。

11. 研究助成金の会計処理

助成金を研究者個人の口座へ振込むことはできません。当財団が所属機関宛に寄附金として贈呈しますので、所属機関の研究費使用規程に従って会計処理をお願いいたします。

予算の変更、助成金の翌年度への繰り越し、研究終了時の残余金の扱い等については、当財団の「研究助成の手引き」に記載されています（ホームページからダウンロード可能です）。

12. 採択後の提出物等

下記の書類のご提出、ならびに当財団の出版物へのご寄稿や助成研究発表会でのプレゼンテーションをお願いします。

1. 振込依頼書：毎年度期首に提出
2. 会計報告書(予算)：毎年度期首に提出
3. 顔写真(電子ファイル)：採択時に提出
4. 助成研究経過報告(兼 継続申請書)：年度末の継続時に提出
5. 会計報告書(決算)：年度末の継続時と終了時に提出
6. 助成期間中のコミュニケーション：中間発表や当財団関係者の訪問等をお願いすることがあります
7. 助成研究成果報告：研究期間終了後の5月頃締切、WEB 入稿
8. 助成研究発表会：研究期間終了後の7月

13. 研究成果の扱い

当財団による助成研究の成果については、積極的な論文発表や口頭発表をお願いいたします。論文発表等にあたり、当財団からの研究助成を受けた旨をお書き添えください。詳細は、当財団の「研究助成の手引き」に記載されています（ホームページからダウンロード可能です）。

研究成果に基づいた特許または実用新案の出願に際して、当財団は権利を主張しません。

14. 選考委員

第1分野選考委員	
中西 八郎（委員長）	東北大学監事・名誉教授
浅野 泰久	富山県立大学工学部生物工学科教授
岡田 清孝	自然科学研究機構・基礎生物学研究所所長
川合 眞紀	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授、理化学研究所理事
河本 邦仁	名古屋大学大学院工学研究科教授
西郷 和彦	高知工科大学環境理工学群教授、元東京大学教授
寺前 紀夫	東北大学大学院理学研究科教授
檜山 爲次郎	中央大学研究開発機構教授、京都大学名誉教授
第2分野選考委員	
宮崎 照宣（委員長）	東北大学原子分子材料科学高等研究機構教授
石原 直	東京大学大学院工学系研究科教授
石原 宏	東京工業大学大学院総合理工学研究科教授
杉原 厚吉	明治大学研究・知財戦略機構特任教授
宮野 健次郎	東京大学先端科学技術研究センター教授
第3分野選考委員	
大村 謙二郎（委員長）	筑波大学大学院システム情報工学研究科教授
長谷見 雄二	早稲田大学理工学術院教授
深尾 精一	首都大学東京 大学院都市環境科学研究科教授
人文・社会科学系選考委員	
松下 和夫（委員長）	京都大学大学院地球環境学学教授
巖 網林	慶應義塾大学環境情報学部教授兼政策・メディア研究科委員
白波瀬 佐和子	東京大学大学院人文社会系研究科准教授
高橋 滋	一橋大学大学院法学研究科教授、国際・公共政策大学院長

<過去の助成実績、成果報告>

当財団のホームページで、過去に助成を受けた研究の一覧や助成研究成果報告を閲覧することができます。また、過年度の応募数は、当該年度の「事業報告書」に記載されています。

公益財団法人 旭硝子財団

<http://www.af-info.or.jp>

〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ 2F

TEL (03) 5275-0620 FAX (03) 5275-0871

E-mail: post@af-info.or.jp